

教育というフィールドに 旋風を吹かせ続ける 森山真有

トライグループ専務取締役

「その案件は、他社ではできない新しいものか？」——
これは、森山真有氏が毎日のように繰り返す言葉。
全国津々浦々に家庭教師ネットワークを張り巡らせ、
自治体や公立校と組んで、教育格差の解消に取り組み。
そして今春、これまで存在しない「高等学院」を立ち上げた。

撮影：山岸徹 Photograph：福森クニヒロ、桐本マチコ、大高和康



京 都府亀岡市のはずれ——。
自然豊かな山間の地に、のどかな田園地帯が広がっている。春の新緑、秋の紅葉のシーズンはもちろん、冬の雪景色も格別美しい。都会の喧騒をすっかり忘れさせてくれる環境は今の時代に最高の贅沢といえるが、この地で暮らす人にとっては悩みもある。
瀬上志帆さん、有彩さん姉妹。姉の志帆さんは中学3年生で、妹の有彩さんは中学1年生。高校、

大学受験が現実味を帯びてくる年頃で、友達の間でも進路に関する会話が増えた。
「私が住んでいる場所は、はつきり言って『田舎』。路線バスは1日に3便しかなく、それに乗っても最寄りの駅まで40分は軽くかかってしまう。学校では塾に通っている友達が増えてきたが、私にはムリ。塾に往復する時間がとれないし、親の送り迎えだって必要。そこで家庭教師をお願いしたいと



全国各地を駆け巡り、教育プランナーとして活動することもある森山真有氏。「私が育った町も、こんな雰囲気の田舎。でも、どんな田舎にだって家庭教師を派遣します。不可能を可能にする、がテーマですから」。

思いました」と志帆さんは話す。
しかし、こうしたケースに家庭教師を見つけることはできるのか。志帆さんが塾へ通えないように、家庭教師が生徒の家を往復するのにかかるの労力はずだ。
志帆さんは叔父にあたるトライグループ専務・森山真有氏に相談。答えは「OK」だった。
「親族だからといって、特別な便宜を図ったわけではありません。トライであれば、家庭教師の派遣は一部の離島を除き、日本全国どこでも可能。現在トライには約10万人の大学生が家庭教師として登録し、さらにプロとして活動する社会人の家庭教師もいる。そんな大規模なネットワークを持つトライだから、きめ細かな対応が取れるのです」と森山氏。
彼は言葉が続ける。「現状の日本には、地域や親の所得によって子供の教育に格差が生まれるという問題点がある。だが、住んでいる場所や親の収入は子供には責任のない話。そうした格差の解消こそ、トライが最も力を入れて実践していることです」。

志帆さんは中学2年の半ばからトライの家庭教師に来てもらっている。姉が勉強に打ち込む姿を見て、ほどなく妹の有彩さんもトライに家庭教師をお願いした。
そんな家庭教師のトライには、独自のシステムがある。教育プランナーの存在だ。「家庭教師の依頼があると、まずはそのお宅へ教育プランナーがうかがいます。勉強の目標、予算、日程などを相談し、さらには子供の性格診断も行う。それから子供に適したオーダーメイドカリキュラムを組み、どの先生を派遣するかを決定していきます」と森山氏。
以前の志帆さんは、数学と理科を苦手に感じていた。そこでトライでは京都市に住む工学部出身の先生を選んだ。先生は車で片道1時間かけて瀬上家へ通い、志帆さんの弱点の克服を目指した。「教え方がわかりやすく、質問もしやすい。ひとつずつ疑問を解決していきます。今では理科が得意教科になりました。そのぶん、得意だった文系の科目が心配……」(笑)。



現在、志帆さん(写真中央)と有彩さん(右)を指導する家庭教師、前川直寛氏。京都市内から1時間かけて通っている。

学校でもトライの指導を「おおさか・まなび舎」事業
これまで82万人の子供を指導してきた実績から「トライII家庭教師」というイメージが確立している。だが、自宅で教える家庭教師だけがトライの姿ではない。教育の現場から格差をなくすため、家庭教師の枠を飛び越えた活動を積極的に行っている。
その一例が、「おおさか・まなび舎」事業への参加だ。この事業は、全国学力テストの成績低迷を受けて橋下徹大阪府知事が打ち出した「大阪維新プログラム」の施策のひとつ。放課後や休日に補充授業を実施し、子供たちの勉強に向かう意識を高めようというのが大きな狙いだ。
トライでは大阪府内の小学校20校に学習支援アドバイザーを派遣。トライの教材を使いながら、子供たちの宿題や自習の支援を実施している。
森山氏は言う。「正直言って、こ



1. My Gymでは0~13歳を対象に、月齢別に9つのクラスを開設している。写真は23ヵ月~2歳半の幼児が通う「ジムスターズ」クラス。2.各クラスの定員は15名。3人のインストラクターが指導にあたる。3.このクラスをはじめ、小さな子供向けクラスは母親も一緒に参加する。4.さまざまな遊具、器具を使ってフィットネス。5.クラスは1回1時間。途中でぐずりだす子供はほとんどいない。



全米ナンバーワンの「My Gym」が日本上陸

英 会話教室に通っても、イングリッシュネイティブのようには話せない。「なぜ両親は幼い頃から英語を習わせてくれなかったのだらう。自分の子供には同じ思いをさせたくない」。そうした気持ちを抱いているのであれば、まずは「My Gym」の扉を開いてみることに。

My Gymは全米200カ所、世界25カ国に展開する子供のためのフィットネスクラブ。身体を動かすエクササイズを通して、体力、知性、感性を同時に育てていくという独自の教育プログラムが高い支持を集めている。

トライグループ代表取締役社長の二谷友恵氏は、アメリカにてMy Gymの素晴らしさに触れ、日本に持ち帰ることを決意。日本国内での独占契約を結び、二子玉川に続き、昨年10月、広尾にもオープン。話題をさらっている。

ジム最大の特徴は、日本に向けたローカライゼーションを最小限に留めている点。子供たちと接するインストラクターはアメリカ本土の育成プログラムを受け、厳しい認定基準をクリアしたプロフェッショナル。クラスもアメリカ同様、英語で運営されている。

「子供たちが自ら興味を持つ環境、例えば遊具や器具に夢中になれる空間は、子供の潜在能力を引き出すのに最適。身体を動かしている時、子供たちは無意識で英語を聞き取っている。そして自然に返事をする。この繰り返しで英語力が高まっていきます」と、インストラクターは言う。

さらにフィットネスはメンタル面の強化にもつながる。「ひとつずつ遊具や器具をクリアしていく。今日できなかったことが、数日後にできるようになる。そんな成功体験が次へチャレンジする意欲と自信を生み出します」。

二子玉川、広尾とも、ほとんど宣伝をしないにもかかわらず、すでにクラスの空き待ちが出る状態。My Gymにより、トライグループの提供する世界はさらに広がった。



上: クラス終了後に押してもらったスタンプが子供たちの楽しみ。右: 世界共通デザインで入会証。入会金は¥10,500、年会費は¥10,500、月謝は¥21,000。



CMには、実際の生徒である渡辺麻友を起用。

「トライ式高等学院」は従来型より授業料が格安

通信制高校の従来型サポート校とトライ式高等学院では、保護者の出費面にも大きな差がある。従来型サポート校にかかる費用は1年間で約100万円以上。一方のトライ式は60万円強。「通信制高校の授業料が20万~30万円。これにサポート校の費用を合わせて100万円以内で収めるようにしないと、一般家庭にはかなりの負担になる」と森山氏。さらにトライ式では授業料のローン返済も可能だ。

の事業への参加はビジネスのためだけとは考えていません。使用する教材も自前ですから、利益はさほど計上できない。それでも企業は、ボランティア活動や社会貢献に臨む必要があると思う。我が社に何ができるかと考えた時、教育格差をなくするための活動が最も有効だろう、という結論にいたりました」。

トライが支援する20校のうちの1校が、門真市立砂子小学校。同校では学校が休みの土曜日を利用して、参加を希望した生徒を対象に教室を開いている。

坂田英夫校長に話を聞いた。「不況の影響もあり、塾に通いたくても通えない生徒が増えていく。これまでお金をかけずに学べる環境を整えてあげたいと願っていた。トライによる支援が受けられるよ

うになり、本当に嬉しい。参加している生徒たちの目がいきいきとしてくるなど、大きな変化を感じます。現在は4、5年生を対象にした教室だが、ゆくゆくは他の学年に向けた教室も考えていきたい。取材に訪れた土曜日、生徒を指導していた先生は、トライに登録している現役の大阪大学の学生。



1.門真市立砂子小学校で土曜日に開催されている「おおさか・まなび舎」。校内で4、5年生を対象に募集を行い、参加希望者を募った。プリントで自習し、解けない問題を先生に教わる。2.教師を務める大阪大学の学生・岩本佳子さん。「森山さんは存在感の強い人。教育にかける熱意がオーラになって、全身を包んでいるようです」。

通信制高校の新型サポート「トライ式高等学院」

こうしたトライグループが、新たな事業として展開する「トライ式高等学院」。通信制高校に通う高校生をバックアップする新しい形態のサポート校だ。森山氏は設立の理由をこう説明する。

「所定のレポートを提出し、スクリーニングをすれば卒業認定を受け

「1対1で向き合う家庭教師とは異なり、絶えずすべての子供に目を配ってあげなければならない。性格もひとりひとり違いますし、私自身がとても勉強になる。トライには貴重な経験をさせてもらっています」と、笑顔を見せる。トライによる「おおさか・まなび舎」事業への参加は、子供たちだけではなく、スタッフの人生にもかかげがえない財産を与えているといえる。

られる通信制高校ですが、そのレポート提出は継続することが難しく、8割以上が中退してしまふ。そこで勉強や卒業を手助けしようというサポート校が、8年前からいから各地にできています」

だが実際は、「そのサポート校をも辞めてしまふ生徒が増えている」という。

それはなぜか。「通信制高校の生徒は、もともと通っていた普通高校を不登校になって辞めた人が多。通うことが苦手のだから、高校がサポート校に変わったからといって、うまく通えるわけがない」と森山氏は分析する。

そこでトライでは家庭教師が生徒の家へ行き1対1で指導するシステムを作った。生徒は、教室に来てもいいし、家庭教師を頼りにしてもいい。「それがトライ式高等学院です」。もともとトライが持

っているノウハウや資産をそのまま使える仕組みであるところが、ビジネス設計上の強みでもある。現在、高校の中退者は1年間で8万人。これに初めから高校へ進学しない4万人を加えると、毎年12万人が最終学歴を「中卒」で終えることになる。

「学歴が人生のすべてではないが、学歴で人生のある一定の部分が決まる場面もまたある。ですから、このトライ式高等学院の取り組みは絶対に成功させたい。高卒の資格を生徒全員に与えたい」

そんな思いから、トライ式高等学院では通信制高校を卒業できないければ授業料等を全額返金するというシステムを採用した。このシステムは、ビジネスの観点で見れば大きなリスクを抱えることになり、それだけにこの新事業へかける覚悟がうかがえる。

もりやま・しんゆう
1973年生まれ。京都大学経済学部卒業後、トライグループに入社。2005年e-ラーニングの開発運営を展開するTRGネットワーク代表。同年ひきこもりの家族をサポートする次世代育成ネットワーク機構理事。'06年トライグループ専務に就任、自身が出演のCMも話題に。

